

Decathlon

今回の遊星人では「惑星地球の形成と進化」の特集を組んだ。この特集については1-2年前から話があったが、伸び伸びになっていたのがやっと日の目を見たことになる。その間に世の中の風潮が大幅に変わり、初期の地球においては高温で形成された深いマグマオーシャンの内部で鉄と珪酸塩の化学平衡が成り立っていたと多くの研究者が考えはじめている。マグマオーシャンの痕跡はマントル内部の層構造や不均質としては保存されないが、核形成時の痕跡としてマントルそのものの組成に反映されているらしいのである。高压分野の研究も様変りの現状である。かつて、マルチアンビルはわが国の独自の装置として、わが国の独壇場であった。しかし今や米国、ヨーロッパなどの無数の研究機関においてマルチアンビル高压装置が普及し、それをを用いて多くの研究がなされ、博士の学位も数多く生みされるようになった。もちろん、わが国の研究者の助けなしにである。高压研究の分野は過去の遺産にしたがって安穏としていられない状況にあるのはもちろんである。同時

に、初期地球の地質研究ではわが国には始生代の地質体がないことから、かつては欧米の研究の独断上であった。しかしながら、全地球史解読プロジェクトに見られるように、近年わが国の研究者が積極的にこの分野に切り込み、大きな貢献を始めつつある。世界に伍して研究をすすめるのは大変なことではあるがダイナミックに進む科学に身を投じることは大変魅力的なことである。月惑星探査を近い将来に控えたわが国の惑星科学のさらにダイナミックな発展を期待したい。

(大谷栄治)

ちょうど宇宙研で月・惑星の探査に関する日米WSが開かれていた8月7日の朝、そのニュースは飛び込んできた。本号は、既に原稿の締め切り日時になっていたが、会員の関心を大いに引く話題なので、速報記事を急遽入れることにした。より本格的な「地球外生命」に関する特集を近々組む予定です。

(高木靖彦)

編集委員

村江達士[編集長] 高木靖彦[幹事]

荒川 政彦 井田 茂 海老原 充 大谷 栄治 加藤 學 小林 憲正
佐々木 晶 佐々木 進 土山 明 中川 義次 並木 則行 早川 雅彦
松島 弘一 向井 正 塚本 尚義 渡部 潤一

1996年9月25日発行

日本惑星科学会誌 遊・星・人 第5巻 第3号

定 価 一部 1,750円 (送料含む)

編集人 村江達士 (日本惑星科学会編集専門委員会委員長)

〒812-81 福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学理学部地球惑星科学科

印刷所 〒135 東京都江東区扇橋3-5-10 星光社

発行所 〒152 東京都目黒区大岡山2-12-1 東京工業大学理学部地学内

日本惑星科学会 TEL 03-3720-9885 FAX 03-3727-4662

本誌に掲載された寄稿等の著作権は日本惑星科学会が所有しています。